

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

北海道特有の歴史文化を活用したインバウンド交流施設整備事業

2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道

3 地域再生計画の区域

北海道の全域

4 地域再生計画の目標

人口減少の進行に伴う国内観光市場の縮小に対応するためには、成長を続けるアジアなど、海外に対し、食や自然に加え、北海道特有の歴史や文化など多様な北海道の魅力を広く発信して旅行市場の拡大を進めることにより、観光客がもたらす消費を更に広げるとともに、海外からの道産品に対する需要拡大や対日投資を促進し、地域の「稼ぐ力」を引き出していくことが重要である。

「北海道」と命名されてから 150 年目を迎える平成 30 年に向け、北海道の歴史や文化を活用したインバウンドの受入体制を強化するため、北海道開拓時代の「村」を再現し、建造物は外観だけでなく、内部まで詳細に再現し、展示している「北海道開拓の村」をインバウンドの交流・体験施設としてリニューアルすることにより、外国人観光客 500 万人の達成を加速させることを目指す。

	事業開始前 (現時点)	平成 28 年度 (1 年目)	平成 29 年度 (2 年目)	平成 30 年度 (3 年目)
開拓の村の 施設収入	62,308 千円	0 千円	703 千円	57,185 千円
開拓の村の 入場者数	144,781 人	1,737 人	1,759 人	4,405 人
開拓の村の 外国人入場者数	11,017 人	126 人	126 人	2,688 人

	平成 31 年度 (4 年目)	平成 32 年度 (5 年目)	KPI 増加分の 累計
開拓の村の 施設収入	57,860 千円	62,313 千円	178,061 千円
開拓の村の 入場者数	4,405 人	4,405 人	16,711 人
開拓の村の 外国人入場者数	2,688 人	2,688 人	8,316 人

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

北海道開拓史時代の建造物を展示した歴史文化施設を活用し、新千歳空港を利用して来道した外国人観光客を呼び込むため、外国人が興味を持つ日本や北海道らしい体験機能を強化し、周遊ルート新たに整備するほか、地域の大学や高齢者を活用するなど様々な世代を巻き込みつつ外国人観光客を地域で受け入れる仕組みを構築する。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生拠点整備交付金（内閣府）：【A3007】

① 実施主体

北海道

② 事業の名称：

北海道特有の歴史文化を活用したインバウンド交流施設整備事業

③ 事業の内容

現在では見ることができない歴史的建物を改修し、酪農にちなんだ飲食や着物の着付け体験ができるブースを設け、北海道についての情報、体験、交流のステーションとしてリニューアルを行う。

また、村内の周遊性を高めるルートを整備することに併せ、吊り橋

からクマゲラなどの動植物を観察・撮影するバードウォッチャーなどと呼ばれ込むなど、道立自然公園内の豊かな自然と歴史的建造物の魅力を高め、誘客を強化する。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

体験施設や周遊ルートの整備に加え、多言語化対応を強化することで外国人観光客の入場者増を図り、1,700千円の入場料収入の増加を図るほか、体験コンテンツの利用料や物販等による収益増を図る。体験については年間24,000千円の収入、物販については年間28,000千円の収入、馬車鉄道の整備により年間5,900千円の収入増を見込んでおり、施設内での消費を喚起し、一人・一回来場あたりの消費額を増やし、安定的な運営資金の確保に努める。

【官民協働】

- ・北海道、北海道歴史文化財団、ボランティア、地域の観光関係者等が連携し、開拓の村の活用に対する理解促進と機運醸成を図るほか、道内で開催される国際会議等開催後のオプションツアーなどでの活用を促す。
- ・道内企業の中でも特に開拓使時代から創業している事業者に北海道と共同でのイベント開催を提案し、地元企業の歴史の再認識と併せて、北海道の歴史を振り返り、開拓の村の新たな魅力発見の機会を創出し、活性化につなげる。
- ・地域の大学と連携した学生ボランティアや地域の高齢者ボランティアを活用し、施設内の案内等を行う。

【政策間連携】

- ・「北海道」150年(平成30年)に向けて各種イベント等を実施し、道民が地域の歴史や文化を再認識することにより、道民全員で北海道の魅力を発信する機会の創出を図る。
- ・地域の高齢者が蚕糸とり、活版印刷、かやぶき屋根の補修などの技術的を活かしたボランティアとして参加することで、高齢者の活躍の場として活用する。
- ・地域の大学等と連携し、大学生が通訳等のボランティアとして参加することで、国際化への対応を学ぶ機会を創出する。

【地域間連携】

開拓の村は、近隣の札幌市厚別区及び江別市にある博物館などの文化施設とネットワークを構築しており、施設相互のPRや各館のイベントへの誘導を目的としたチラシやHPでの宣伝活動を実施するほか、スタンプラリーやイベントを共同で開催する（ネットワーク加盟館：札幌市青少年科学館、サンピアザ水族館、北海道開拓の村、北海道博物館、自然ふれあい交流館、北海道立埋蔵文化財センター、北海道立図書館、北海道立教育研修所、江別市郷土資料館、江別市セラミックアートセンター）。

⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

	事業開始前 (現時点)	平成 28 年度 (1 年目)	平成 29 年度 (2 年目)	平成 30 年度 (3 年目)
開拓の村の 施設収入	62,308 千円	0 千円	703 千円	57,185 千円
開拓の村の 入場者数	144,781 人	1,737 人	1,759 人	4,405 人
開拓の村の 外国人入場者数	11,017 人	126 人	126 人	2,688 人

	平成 31 年度 (4 年目)	平成 32 年度 (5 年目)	KPI 増加分の 累計
開拓の村の 施設収入	57,860 千円	62,313 千円	178,061 千円
開拓の村の 入場者数	4,405 人	4,405 人	16,711 人
開拓の村の 外国人入場者数	2,688 人	2,688 人	8,316 人

⑥ 評価の方法、時期及び体制

道において、毎年度、実施する政策評価制度を活用し、当該年度
の取組全体の課題、今後の方向性等を整理した上で、産官学金労言
等で構成する「北海道創生協議会」に報告する。

⑦ 交付対処事業に要する経費

①法第 5 条第 4 項第 1 号イに関する事業【A3007】

・総事業費 224,000 千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成 33 年 3 月 31 日（5 カ年度）

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 開拓の村等施設整備費

事業概要：道内の歴史文化施設等の維持のために、改修等を実施するもの。

実施主体：北海道

事業期間：平成28年度～

(2) 文化発信拠点づくり推進事業費

事業概要：北海道の歴史・文化を広く発信するため、ポータルサイトによる情報発信等を実施するもの。

実施主体：北海道

事業期間：平成28年度～

(3) 包括連携企業や旅行業界への働きかけ

事業概要：北海道と包括連携を結んでいる企業や旅行会社等に対し、北海道開拓の村を活用した協働事業の働きかけを行う

実施主体：北海道

事業期間：平成28年度～

(4) ファンドレイジングの検討及び包括連携企業以外の企業への働きかけ

事業概要：企業等と連携し、北海道開拓の村を活用した協働事業を検討し、実施する。

実施主体：北海道

事業期間：平成28年度～

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成 33 年 3 月 31 日

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

6 月中を目処に、外部有識者等に対し、当該事業の K P I の達成状況等を報告するとともに、その事業効果について検証を依頼する。

また、道において、毎年度、実施する政策評価制度を活用し、当該年度の取組全体の課題、今後の方向性等を整理した上で、産官学金労言等で構成する「北海道創生協議会」に報告する。

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

道においては、北海道創生総合戦略に掲げる重要業績評価指標（K P I）の達成状況について、毎年度 10 月に評価を実施予定。

	事業開始前 (現時点)	平成 28 年度 (1 年目)	平成 29 年度 (2 年目)	平成 30 年度 (3 年目)
開拓の村の 施設収入	62,308 千円	0 千円	703 千円	57,185 千円
開拓の村の 入場者数	144,781 人	1,737 人	1,759 人	4,405 人
開拓の村の 外国人入場者数	11,017 人	126 人	126 人	2,688 人

	平成 31 年度 (4 年目)	平成 32 年度 (5 年目)	KPI 増加分の 累計
開拓の村の 施設収入	57,860 千円	62,313 千円	178,061 千円
開拓の村の 入場者数	4,405 人	4,405 人	16,711 人
開拓の村の 外国人入場者数	2,688 人	2,688 人	8,316 人

7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

「北海道創生協議会」における検証結果について、12 月を目処に道のホームページにて公表する。